

# Automation Analytics と Red Hat Insights for Red Hat Ansible Automation Platform を有効化する方法

Automation Analytics と Red Hat Insights for Red Hat Ansible Automation Platform により、自動化アクティビティを最適化し、トラブルシューティングし、より多くの情報に基づいて意思決定を行うことができます。

## 自動化のパフォーマンスを完全に可視化

Red Hat® Ansible® Automation Platform サブスクリプションでは、不可欠でありながら見過ごされがちな 2 つのツール、Automation Analytics と Red Hat Insights for Red Hat Ansible Automation Platform を利用できます。

Automation Analytics と Red Hat Insights は、エコシステム全体での運用上、ビジネス上、セキュリティ上の問題を特定、トラブルシューティング、および解決するためのレポート作成ツールと分析ツールのスイートを形成します。自動化の投資対効果 (ROI) を追跡し、将来の自動化プロジェクトを計画して、ビジネスに最大の影響を与える取り組みを優先することもできます。

Red Hat Insights の使用を開始して自動化資産をよりよく理解し、データに基づいた意思決定を行う前に、組織から Red Hat Hybrid Cloud Console への情報のフローを設定する必要があります。

## Automation Analytics と Insights for Ansible Automation Platform を有効化する

Red Hat Insights のデータ収集を開始するには、以下が必要になります。

- ▶ 現在有効な [Red Hat Ansible Automation Platform のライセンス](#)
- ▶ automation controller 4.1
  - ▶ [Ansible Automation Platform アップグレードおよび移行ガイド](#)
  - ▶ [automation controller クイックセットアップガイド 4.1](#)
- ▶ [cloud.redhat.com](#) に接続できる Ansible コントローラークラスター
- ▶ [cloud.redhat.com](#) にアクセスできる automation controller インスタンス

## automation controller の Automation Analytics および Red Hat Insights でのデータ収集を有効にする

### Ansible Automation Platform 2.2 以降の場合

Automation Analytics と Red Hat Insights の統合は、最初のデプロイ時に行われます。Ansible Automation Platform インフラストラクチャのデータの接続を担う insights-client パッケージも、Red Hat カスタマーポータル上のバンドルされたインストーラーに追加されています。

Ansible Automation Platform をデプロイして automation controller にログインすると、セットアップ手順の中でプラットフォームの登録を求められます。これらのオプションを選択すると、automation controller が [console.redhat.com](#) で両方のサービスに接続されます。

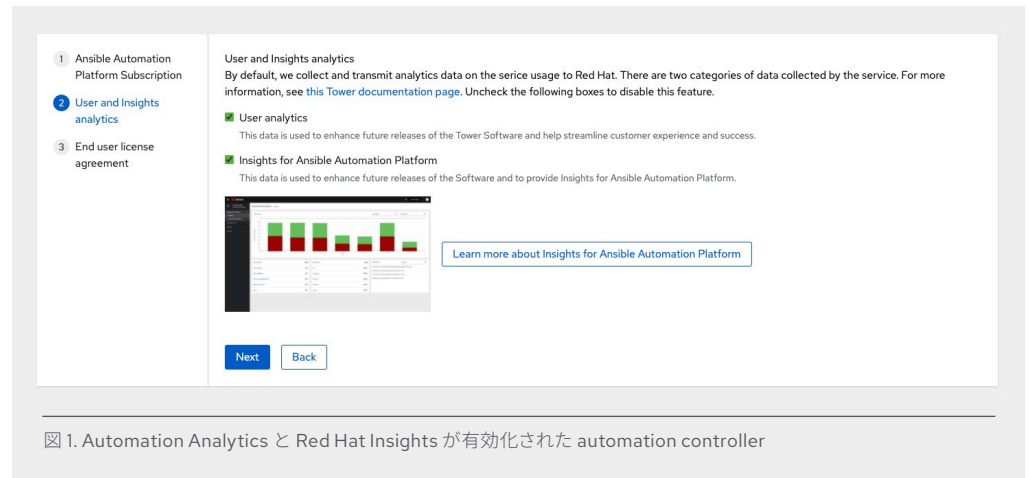


図 1. Automation Analytics と Red Hat Insights が有効化された automation controller

## Ansible Automation Platform 2.1 以前の場合

インストール後に automation controller を Automation Analytics と Red Hat Insights に接続するには、[Controller Settings] に移動し、[Miscellaneous System] 設定を選択します。

Details ページで、[Edit and Configure the Insights for Ansible Automation Platform] セクションを選択します。[Settings] > [Miscellaneous System] には必要な設定が 3 つあります。

- ▶ **[Gather data for Insights for Ansible Automation Platform]** は必ず [ON] にします。
- ▶ **[Red Hat customer user name]** は、cloud.redhat.com のユーザー名です。
- ▶ **[Red Hat customer password]** は、対応するユーザー名の cloud.redhat.com のパスワードです。

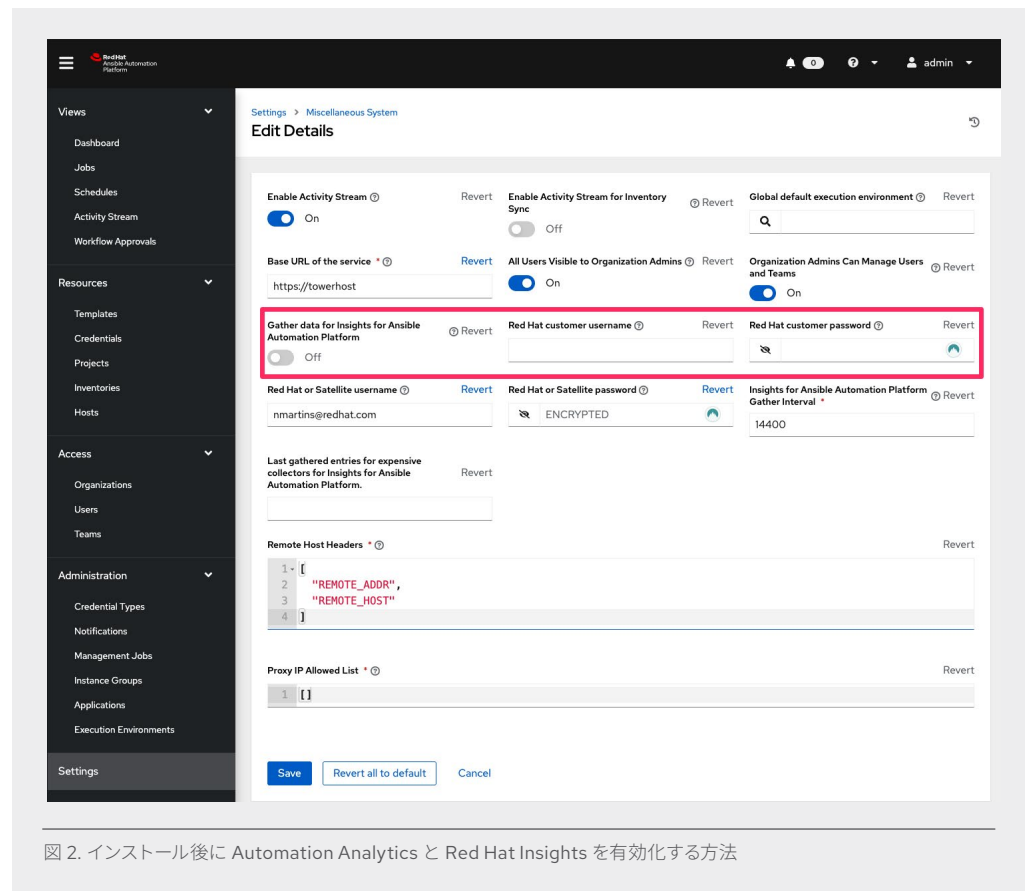


図 2. インストール後に Automation Analytics と Red Hat Insights を有効化する方法

## Red Hat Ansible Tower のデータ収集を有効にする

Ansible Automation Platform Web UI (ユーザー・インタフェース) にログインします。データ収集を有効にするには、ユーザーアカウントに管理者権限が必要です。左側のメニューの [Settings] ボタンをクリックします。注：メニューがコンパクトモードの場合、設定を表す小さな歯車アイコンだけが表示されます。

次に [System] ボタンをクリックします。[Settings] > [System] には更新が必要な設定が 3 つあります。

**[Gather data for automation analytics]** は必ず [ON] にします。実行している automation controller または Red Hat Ansible Tower のバージョンによっては、「Automation Analytics」ではなく「Automation Insights」が表示される場合があります。

**[Red Hat customer username]** は、cloud.redhat.com のユーザー名です。

**[Red Hat customer password]** は、対応するユーザー名の cloud.redhat.com のパスワードです。

[Settings] > [System] ページのスニペットの例を次に示します。

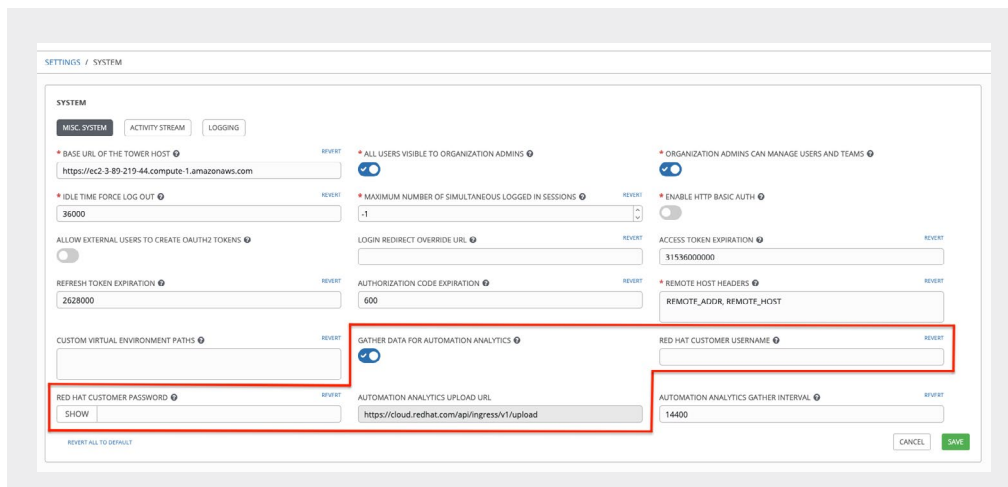


図 3. Red Hat Ansible Tower のデータ収集を有効化する方法

### Red Hat Insights 内での手動データ収集

システムを登録してすぐに [cloud.redhat.com](https://cloud.redhat.com) に同期したい場合は、automation controller のコマンドラインを使用します。これにより、すべてが正しく設定されていることをすばやく確認できます。

コントロールノードで AWX ユーザーまたは管理ユーザーとしてログインし、次のコマンドを実行します。

```
$ sudo awx-manage gather_analytics --ship
```

このコマンドは、次のような出力を返します。

```
[student1@ansible ~]$ sudo awx-manage gather_analytics --ship
/tmp/4457cd25-4722-4b62-9ae6-ce8068026bbc_2019-10-28-155420+0000.tar.gz
shipping analytics file: /tmp/4457cd25-4722-4b62-9ae6-ce8068026
bbc_2019-10-28-155420+0000.tar.gz
[student1@ansible ~]$
```

コマンドは何度でも実行できます。同期ツールは非破壊的です。つまり、データが失われたり、重複したデータがアップロードされたりすることはありません。gather\_analytics コマンドを何度実行しても、データセットは [cloud.redhat.com](https://cloud.redhat.com) 上で同じままです。

## automation controller とのデータ同期の検証

[cloud.redhat.com](https://cloud.redhat.com) で Red Hat Hybrid Cloud Console アカウントにログインし、左側のメニューから [Ansible Automation Platform] を選択します。automation controller が接続されると、接続されているコントローラーの数が [Insights Ansible Automation Platform] 概要ダッシュボードに表示されます。

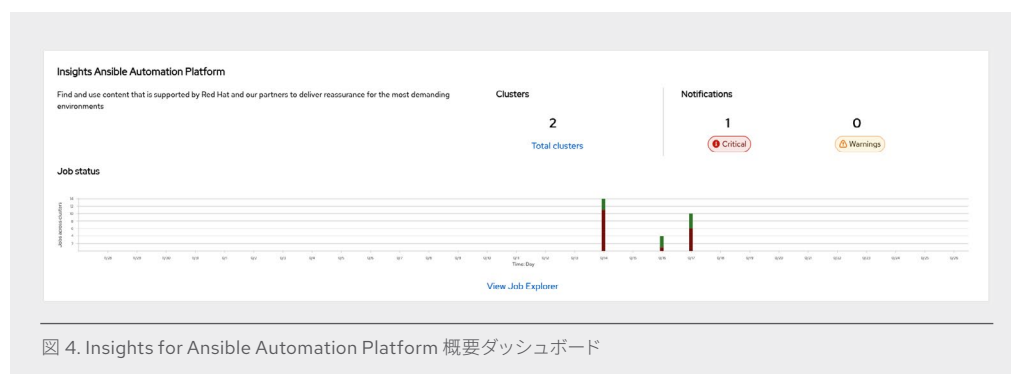


図 4. Insights for Ansible Automation Platform 概要ダッシュボード

[Total Clusters] をクリックすると、登録されているクラスタのジョブステータスが表示されます。

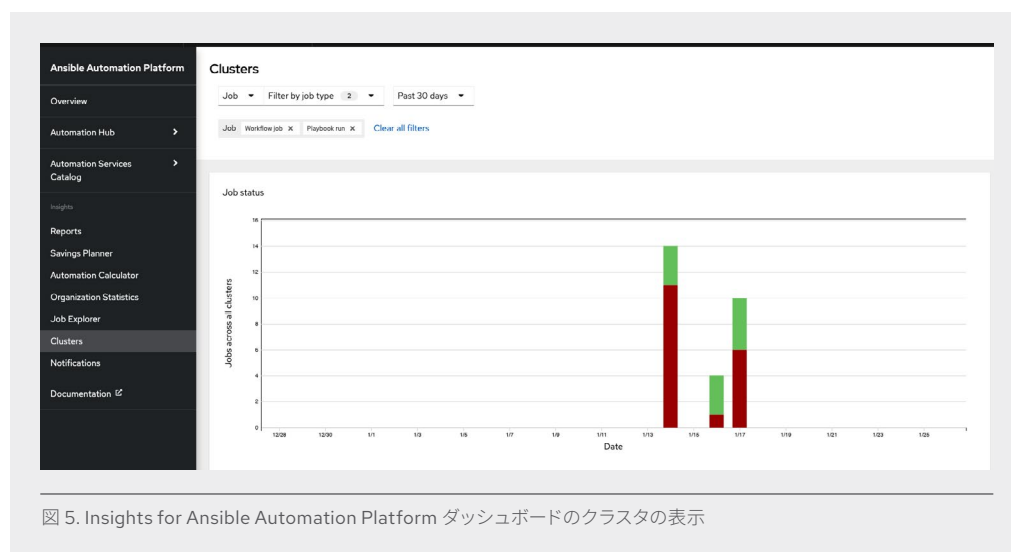


図 5. Insights for Ansible Automation Platform ダッシュボードのクラスタの表示

新規に登録されたシステムは、数日間、ほとんどデータを表示しません。システムを登録して初めて Red Hat Insights を有効にすると、直近 4 週間のアクティビティがアップロードされます。automation controller のジョブは除外されるため、automation controller ダッシュボードは Red Hat Insights ダッシュボードと完全には一致しません。除外されるジョブの例には、cleanup activity stream や cleanup job details があります (管理ジョブのドキュメントを参照してください)。

## Red Hat Insights を自動化の実践に役立てる

Insights for Ansible Automation Platform は、自動化の取り組みを理解するのに役立つ詳細な分析を提供し、問題をプロアクティブに特定して修正することでデータを機能させるので、[自己修復型のインフラストラクチャ](#)を構築できます。

また、Red Hat Insights によって得た可視性を利用して、組織内で自動化をさらに拡張することもできます。Red Hat Insights は次のことに役立ちます。

- ▶ データが欠落している、クラスタの寿命が近づいているといった理由でノードがダウンした場合など、重大な問題に関する通知を事前に受け取る。
- ▶ 自動化の取り組みの ROI を追跡および測定し、結果を Ansible Automation Platform の外部の関係者と共有する。
- ▶ 最もよく使用されるワークフロー、テンプレート、モジュール、成功率と失敗率を期間別に表示する。
- ▶ 最も多くの自動化タスクを作成したユーザーまたはチームに報酬を与えることで、自動化の使用を奨励する。

### データのプライバシーについて

Red Hat は、認証情報シークレット、個人データ、自動化変数、タスク出力を収集しません。

Red Hat が収集および保存するデータの詳細は、

[Automation Analytics のデータセキュリティに関する FAQ](#) を参照してください。

## その他の資料

Automation Analytics と Red Hat Insights の最新の更新についての詳細は以下をご覧ください。

- ▶ チェックリスト: [自動化の監視とトラブルシューティングの 5 つの方法](#)
- ▶ Web セミナー: [ホステッドサービスによる自動化の分析と拡張](#)
- ▶ グラフィック: [Automation Analytics と Red Hat Insights のロールベースのメリット](#)
- ▶ 動画: [自動化の投資対効果 \(ROI\) の計画と測定](#)



## Red Hat について

エンタープライズ・オープンソース・ソフトウェア・ソリューションのプロバイダーとして世界をリードする Red Hat は、コミュニティとの協業により高い信頼性と性能を備える Linux、ハイブリッドクラウド、コンテナ、および Kubernetes テクノロジーを提供しています。Red Hat は、クラウドネイティブ・アプリケーションの開発、既存および新規 IT アプリケーションの統合、複雑な環境の自動化および運用管理を支援します。受賞歴のあるサポート、トレーニング、コンサルティングサービスを提供する Red Hat は、[フォーチュン 500 企業に信頼されるアドバイザー](#)であり、オープンな技術革新によるメリットをあらゆる業界に提供します。Red Hat は企業、パートナー、およびコミュニティのグローバルネットワークの中核として、企業の成長と変革を支え、デジタル化が進む将来に備える支援を提供しています。

アジア太平洋 +65 6490 4200 apac@redhat.com	インドネシア 001 803 440 224	マレーシア 1800 812 678	中国 800 810 2100
オーストラリア 1800 733 428	日本 03 4590 7472	ニュージーランド 0800 450 503	香港 800 901 222
インド +91 22 3987 8888	韓国 080 708 0880	シンガポール 800 448 1430	台湾 0800 666 052

f [fb.com/RedHatJapan](https://fb.com/RedHatJapan)  
 t [twitter.com/RedHatJapan](https://twitter.com/RedHatJapan)  
 in [linkedin.com/company/red-hat](https://linkedin.com/company/red-hat)